

.....

.....

.....

1

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[43]歳、勤続年数[20]年、現場経験年数[20]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [隊員]
○当事者B	年齢[40]歳、勤続年数[17]年、現場経験年数[17]年、階級[消防司令補]、同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[35]歳、勤続年数[14]年、現場経験年数[14]年、階級[消防士長]、同様の活動 [数年に1度程度]、任務 [隊員]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

.....

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	当事者BがAに	2階部分から1階への筒先配備転戦策提言	
経過2	当事者Aが	1階延焼区画への筒先配備を了解し転戦	
経過3	当事者BCが	協力してホースを1階玄関方向へ移動	
経過4	当事者Aが	ホース移動を介助	
経過5	突然上部軒先が	AとBCとの間に崩落	
経過6	当事者ABCが	反射的に危険の回避行動	
経過7	転戦ホースが	崩落した軒先の下敷きになる	
経過8	当事者ABCが	建物周囲から離脱	
経過9	当事者Aが	現場指揮者に崩落報告	
経過10			

【その事例発生時の状況について】

○事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。たまたま、負傷事故にならなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ

木造建物火災・軒先崩落状況



先着隊到着後の現場活動状況

3回目の崩落箇所(危険回避)

2回目の崩落箇所(ヒヤリハット箇所)

1回目の崩落箇所(危険回避)



鎮火後の状況

軒先が完全に崩落



崩落した軒先の状況

当事者BCの位置

隊員間に崩落した幅約3メートルの軒先部分

当事者Aの位置

○ヒヤリハット事例：木造建物火災時の軒先崩落事例
(同様の体験は、初めて体験した。)

(07H0072)

・発生日時：平成18年1月 午後1時頃

経過	現場の状況	隊員A	隊員B	隊員C	備考
		隊員／消防司令補 ・年齢 43 歳 ・勤続 20 年 ・現場 20 年 ・同様の活動: 数年に1度程度	隊員／消防司令補 ・年齢 40 歳 ・勤続 17 年 ・現場 17 年 ・同様の活動: 数年に1度程度	隊員／消防士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 14 年 ・現場 14 年 ・同様の活動: 数年に1度程度	
	一般住宅建物火災の第二出場として出場 現場は火災中期に達していた Aに2階部分から1階への筒先配備転戦策提言 1階延焼区画への筒先配備を了解し転戦 協力してホースを1階玄関方向へ移動 ホース移動を介助 突然上部軒先がAとBCとの間に崩落 反射的に危険の回避行動 転戦ホースが崩落した軒先の下敷きになる 建物周囲から離脱 現場指揮者に崩落報告				延焼状況の判断を怠り、また、上方の燃焼危険を認知しないまま

◎ヒヤリハットが起きたのはどうしてだと思うか？また、どうして負傷事故に至らなかったか

- 直接的な原因：状況判断に問題があった。
- ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。
 - ・たまたま、負傷事故にならなかった。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (心理・体調について)
- ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。
 - ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。
 - ・活動に対する経験が不足していた。
- (指揮・管理について)
- ・隊員の連携が不十分だった。